

毎日歌壇

水原 紫苑 選

月の模様をそれ以上みつめるな貴方の頬に転生をする
甲府市 村田 一広

△評▽これは月の舊し文句なのだろうか。何があってもいいので、頬に転生されてみたいものである。

白鷺はばかりが咲いている公園 善意はいつも真正面に来る
東京 遠野 鈴

△評▽白いつツツのこんもりした量感と善意のまっすぐさが面白く響き合う。

昨晚のきみは無性に美しく雌雄の壁がずっと透明
千葉市 星野 珠青

寛解を告げられた病院帰り熱が低く飛び交っている
さいたま市 雨谷 詩穂

さみしさのスケッチを抱き海風の絵筆に限り描ききれにゆく
四日市市 早川 和博

長かった旅の終わりに水道水蛇口の先で刹那の光
札幌市 橋 昇弘

太陽が初乳でむせた勢いで生まれた自分はおはようおはよう
東京 力 ヒ

正座して聞いた話を何ひとつ思い出せないから花になる
松原市 たりりずむ

食い違つ話をそれぞれ聞くと心に一本走る溪流
取手市 奥山いずみ

寒い日はくつきり私の体温が輪郭を持つ抱きしめないで
横浜市 友常 甘酢

伊藤 一彦 選

グッバイとハローがノックする春に君との縁を固結びする
狭山市 りんか

△評▽春は卒業や入学・入社で出会いと別れの季節。上の句、うまい表現だ。そんな季節にしっかりと「固結びする」という作者。

あなたへと銃口を向ける覚悟も告げる私の出した答え
四万十市 佐竹 紫田

△評▽相手に「銃口を向ける」とはドキッとすると。作者は本気かつ本音で迫ったのだ。

かと言ってかわいまままでいられない風のあのチューリップたち
津市 川原田明子

ゴミ袋重いのは鶴の皮 歌うように僕に手渡す
久留米市 春日 登

これからも異なる歩幅 夕焼けに「きれい」と言えば背中から「うん」
武蔵野市 北谷 雪

春風に飛ばぬ帽子をかぶる人「進め」「止まれ」と息を返す
新発田市 飯田 英範

一族の去りてはつんと屋敷神 草を払えば起こすなと言ふ
霧島市 秋野 三歩

質上げの春闘深夜まで妻からメール「一歩も譲るな」
越谷市 小田 穂藻

指先をおいしい春に染め上げて蓬摘む母まなうらに居る
池田市 黒木 淳子

台湾のソウルフードと言われつつ作り売る日本人なり
札幌市 武者 圭司

米川千嘉子 選

成仏をしてと供養のお焚き上げ受け取り手のない津波遺留品
郡山市 寺田 秀雄

△評▽東日本大震災の津波での遺留品。保存していた自治体が区切りをつけたのだろう。しかし、祈りには区切りがない。

今日もすぐ過去になることさつま芋に琥珀とろろかける夕暮れ
千葉市 芍 葉

△評▽大学芋を作ったりして過ぎる日常。下句の表現の新鮮さで一首に説得力が。

百歳の患者を一人抱き居て一世の軽さかなしき
豊橋市 句 蕃榮利

記憶には風を見ている君がいていちまいの空ふるえておりき
垂水市 岩元 秀人

「与ふるは幸ひなり」とふ聖書のことば捨てて迷走するか亜米利加
流山市 塙 葉子

このままじゃ良くないことは分かっている一人じや止められぬ車内の喧嘩
守谷市 久保田洋二

片ひじをつきてももの食うぶささよ 母を知らざる罪にあらずや
東広島市 藤川 幸雄

グリーンピースご飯を五回食べないと春の終わりを信じられない
東京 河野多香子

墓石は小山の如く積まれて墓碑読めぬまま石となりゆく
千葉市 中村キヨ子

人づてに君逝きしこと聞くと通夜一年半も知らなかったよ
日南市 宮田 隆雄

加藤 治郎 選

しあわせの渦から生まれたわたあめの白い短いいのちが甘い
長岡市 三月 とあ

△評▽わたあめのイメージがダイナミックで美しい。しあわせの渦が読者を包む。白い短いいのちへの憧れが感じられる。

少しずつ私物を家に持ち帰る退職近い日々のルーティン
千葉市 佐藤 綾子

△評▽私物をいっぺんに持ち帰ることは大変だ。短歌ならではのモチーフである。

味噌汁をする、独りで。十二時のボンボン時計、すこし遅れて
雲南市 熱田 俊月

ストレスで聴導犬はやつても毛のない足で働かんとする
群馬 金子 歩美

あちこちが僕だけ行けない喫煙所みたいな感じいつもひとりだ
名古屋 森本 有

親友にならなかったあの女が卒業文集で讀えたマキヤウエリ
松戸市 丑田 葉

平日の朝ラーメンの行列は明確な目的を表す
大津市 佐々木敦史

雨を眺める日曜の昼下がりがホットココアのマグを包んで
四万十市 佐竹 紫田

舞台上にマジになっているのそう言われてもひどく喉が渇く
山形市 新道百合子

落ちてゆく夕日に向かいバカヤロー昭和によく見た青春ドラマ
広島市 野崎 明

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます

次回13日に掲載します。